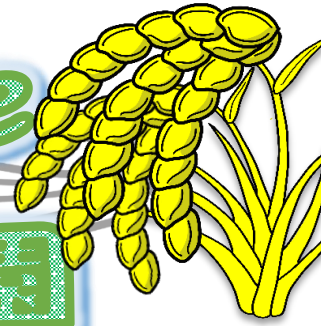




Agri Note

【アグリノート】

ハナエチゼン・コシヒカリ情報



JA福井県

水稻の幼穂形成期となりました。中干しを止め、間断通水の徹底を心掛けましょう。幼穂形成期から出穂・登熟期までは稲が最も水分を必要とする時期なので圃場の乾かしすぎには注意が必要です。また、いもち病・紋枯れ病は早期発見・早期防除を徹底しましょう。斑点米カメムシ対策として畦畔の草刈り・防除計画も重要です。近年ニカメイガの被害も見られますので、圃場をよく観察し葉鞘の黄変「心枯れ」がみられる場合は本田防除を実施しましょう。7月の気温は平年より高い予報ですので、熱中症には十分注意しましょう。

7月上旬以降の管理ポイント



1. 幼穂形成期以降の管理

①水管理（間断通水の実施）

根の老化を防ぎ、品質の良い米を収穫するのに重要な作業です！

- 間断通水（幼穂形成期～刈取5日前まで）

● 入水
水位：3～5cm
程度

● 自然落水

● この水管理の繰り返し

- 足跡や溝に水が残っている状態で再び入水

②穂肥の検討

分施の圃場では、穂肥の実施時期になります。（コシヒカリでは1回目、ハナエチゼンでは2回目）また一発圃場でも葉色が薄い、茎数が少ない場合は検討してください。実施については、田植日・肥培管理等で生育が異なりますので、必ず幼穂を確認して行いましょう！

【穂肥のタイミング】

品種	1回目	幼穂長	2回目
ハナエチゼン	済	1～2mm	1回目の10日後
コシヒカリ	7月中旬	10mm	

【おすすめ肥料】

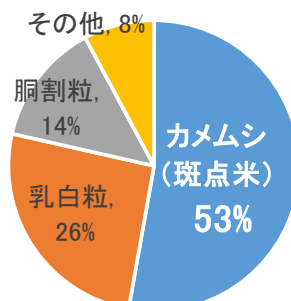
- アグリフラッシュ
(N14・P14・K14)
- 新エコ追肥
(N15・P3・K10)



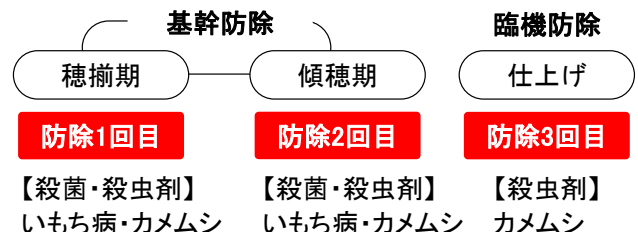
③本田（害虫）防除

品質に影響を及ぼす、いもち病や紋枯れ病、斑点米カメムシへの適切な防除を実施していきましょう。特に斑点米カメムシは令和7年産米の品質低下（2等への格落ち）理由No.1でした。令和8年産米は防除の徹底により品質アップを目指しましょう！

【令和7年産米格落ち理由】



【防除体系】



★ ニカメイガが多い地域ではニカメイガにも登録のある農薬で同時防除を行いましょう